

## 学校の教科書をどんどん予習しよう

－予習は、わからないところをはっきりさせて学校の授業に臨むためにするもの－

開倫塾  
塾長 林 明夫

### 1. はじめに

開倫塾の塾生の皆様、新しい学年に御進級おめでとうございます。私は開倫塾の全体の責任者で、塾長を務める林明夫です。新学年に際し、塾生の皆様が、新しい学年で、又、今在籍している学校を卒業してから一生涯において、使用可能な役に立つ勉強の方法をこれからお伝え致します。どうか、よくお読みになり、よく「理解」できた方は、ためらわずに実行し、素晴らしい学校生活をお送り下さい。「自分の夢の実現に向けて勉強しつづける人」を、私は「教育ある人」と呼んでいます。開倫塾の塾生である間に、「自分なりの勉強の方法」を身に付け、「自己学習能力の育成」を図り、「自分の夢の実現に向けて勉強しつづける人」という意味での「教育ある人」になって頂けるよう希望致します。開倫塾の「使命(ミッション)」は塾生の皆様の成功の実現に貢献することであり、塾生の皆様のライフスタイル(このような生活がしたい、このような人生を送りたいという憧れのこと)の中にスタディスタイル(このような勉強がしたいという憧れ)があると私は思いますが、開倫塾ではできるだけ、スタディスタイルをあらゆる機会に具体的に示し続けることにより、皆様の成功の実現に貢献したいと思っておりますので、どうぞ御活用下さい。では、前おきが長くなりましたが、本題に入らせて頂きます。

### 2. 学校の教科書をどんどん予習しよう

- ①文部科学省は、教育課程(文部科学省が示す学校で教えるべき内容)を、学校での教育の「到達目標(最高でもここまで教えればよいという目標)」から、「最低基準(最低でもこの程度までは教えなければならないという基準)」へと、一八〇度方針転換しました。この方針の大転換のため、教科書や副教材が大幅に書き換えられようとしています。今春皆様がお使いになる教科書は、まだ従来のもものと比べて十分なものとは言えません。なぜなら、学習内容が三割程度削減されたものが中心で、発展的内容として削減前の内容の一部が紹介されているにすぎないからです。分かりやすく言えば、全教科とも「やさしすぎる教科書」といえます。
- ②このような「やさしすぎる教科書」は、いくらでも予習ができます。私の、塾生の皆様への提案は、自分のお気に入りの科目だけでもいいので、それらの教科書の予習を、ゴールデンウィークが終わるまでに、脇目もふらずにどんどんしてみたらどうかということです。できれば、夏休みが終わるまでに、何科目か教科書の勉強を終わらせてしまうことです。勉強に遠慮は一切要りません。やりたい勉強は、基礎知識を一步一步着実に積み重ねながらどんどん先へ先へと進めることをお勧めします。

- ③では、どのように予習をしたらよいのか。まずは、どんな教科書でも、ゆっくり、落ち着いて、息を整えながら、大きな声で何回も読んでみることをお勧めします。何回も読みながら、いったい何が書いてあるのか、書いてある内容は何なのかをお考え下さい。よく考えた上で、どうしても分からない語句は、優先順位をつけながら辞書や参考書で調べて下さい。数学や理科などは、考え方の道筋をノートなどに書いてみることも役に立ちます。学校で先生から授業を受ける真剣さで、教科書をじっくり読み、「うん、なるほど。」とよく「理解」できた段階にまですることです。
- ④第二は、予習をしてよく「理解」できた内容だけでいいですから、「教科書を見ないでスラスラ口をついて言えるようにすること」、さらには「教科書に書いてある内容を何も見ないで綺麗な文字、つまりは楷書で書けるまでにすること」(この二つを、開倫塾では、よく「理解」できた内容を「定着」させるための「作業」と呼びます。)です。予習の内容として、これら二つの「定着のための作業」を確実にすることが大事です。
- ⑤その上で、教科書や副教材の問題や演習をノートにじっくりやり、「応用力」を身に付けることも、「予習」の大切な内容です。
- ⑥では、学校の授業には何のために出るのでしょうか。それは、「予習」をすることによって学校から渡された教科書と問題集や副教材を「理解」し、「定着」させ、「応用力」を身に付けた上で、十分には分からないところ、つまり自分なりの問題点を発見し、その問題点を解決するために学校の授業に出席するとお考え下さい。要するに、分からないところをはっきりさせ、問題意識を最高のところまで高めてから学校の授業に臨むために、予習はするのだとお考え下さい。
- ⑦ただし、予め大半は勉強し終えているからといって決して、学校での授業を軽視したり、授業で初めてその内容を学ぶクラスメートをばかにしたりしてはなりません。人間としてあるまじき行為だからです。

### 3. 学校の授業を勉強の「スタート」から「クロージング(まとめ)」に変えよう

- ①開倫塾の塾生の皆様の大半は、高校を卒業後、大学などのいわゆる「高等教育機関」に進学なさるのが「現実」の姿です。その大学で今最も問題となっているのが、「大学生の学力不足」です。開倫塾の塾生の皆様には「学力不足の大学生」になってほしくありません。
- ②大学での講義や演習、卒業論文、卒業研究で最も大切なことは、高い問題意識を持って自らの問題解決のために勉強に臨むことです。
- ③勉強する内容として先生方から示された教科書や資料はもちろんのこと、自分で必要と判断して収集したものを自分の力で分析し、何が問題かを明確にした上で、更に自分で考え続け、まとめる、これが大学などでの勉強の基本です。授業(講義)や少人数での演習、一対一での論文指導などは、問題解決の参考にすぎません。
- ④予習を十分にしておいてよく分からないことを明確にしてから授業に臨むこと、つまり学校での授業を勉強の「スタート」から「クロージング(まとめ)」に変えることは、大学などの高等教育機関での勉強に耐えられる基礎力を、開倫塾の塾生である間に身に付けることと直結致します。自分の未来は自分で切り開いて初めて、人生の意味があります。是非、今日から取り組んでみて下さい。

以上